

TCFD 提言に基づく情報開示

金融安定理事会 (Financial Stability Board, FSB) により設置された気候関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures, TCFD) では、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の 4 分野にわたる 11 の項目について開示を推奨しています。また東京証券取引所のプライム市場上場企業には、この TCFD 提言やこれと同等の枠組みに基づく情報開示が求められています。

フューチャーグループは、IT 技術を通じて社会変革に貢献していくうえで、環境および気候変動対応を経営の最重要課題の一つと認識しています。さらに IT 技術は、環境への影響のアセスメントや環境負荷がより小さい経済活動の支援、環境対応に資するインフラや市場の整備など気候変動対応にも大きく貢献するものと考えています。

東証プライム上場企業としての責務を果たすという観点から、フューチャーグループは TCFD 提言の項目に沿った環境および気候変動対応への取組みを開示します。今後も内容を深化させ情報開示を積極的に行うとともに、気候変動に関するガバナンスを強化し、事業の持続的な成長を図っていきます。

◆ ガバナンス (Governance)

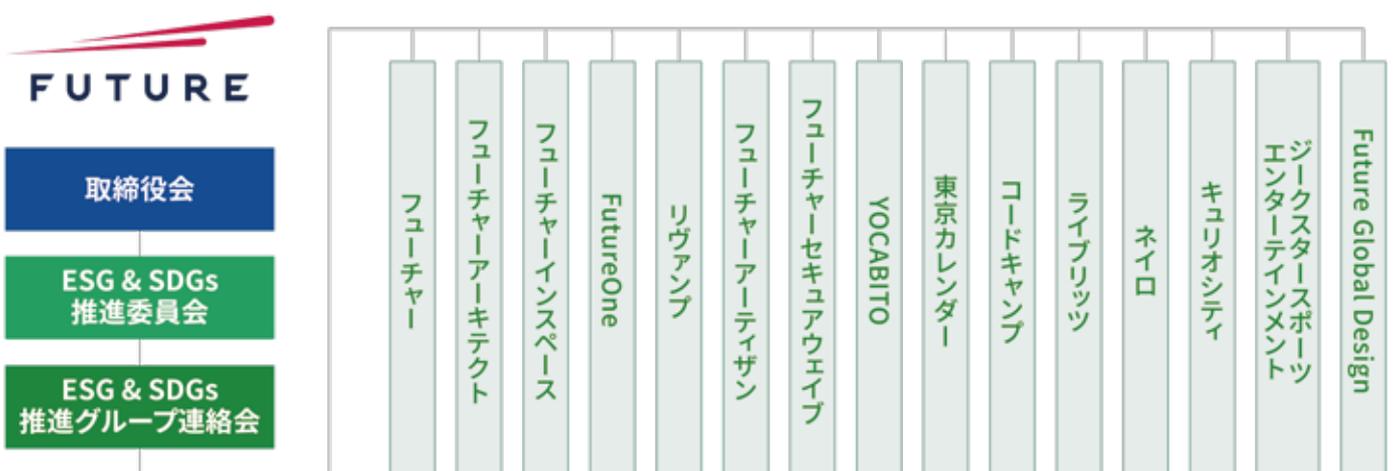
企業価値の継続的な向上のためには、実効性のあるガバナンス体制の確立と実践が不可欠です。当社グループは創業以来、経営戦略と IT 戦略の両軸で経済社会の DX を推進してきました。近年重要性が増しつつある ESG や SDGs の視点も踏まえ、グループ内における実効力のあるコーポレート・ガバナンス体制の構築と運営に努めています。

1) 取締役会の監視体制

- The board's oversight of climate-related risks and opportunities -

フューチャー株式会社取締役会の直下に「ESG&SDGs 推進委員会」を 2022 年に設置しました。また同委員会のもとにグループ横断的な「ESG & SDGs 推進グループ連絡会」を組織し、グループ全体で環境やサステナビリティに関する問題意識を共有し、一丸となって推進する体制を整えました。

この体制のもと、フューチャーグループとしての環境および気候変動対応に関する方針や活動を適時適切に取締役会に報告し、共有しています。重要事項については取締役会にて審議し、決議しています。このようにフューチャー株式会社取締役会がオーナーシップを持つ形で、グループの最重要課題として環境と気候変動への対応に取り組んでいます。



2) 経営陣の役割

- Management's role in assessing and managing climate-related risks and opportunities -

フューチャーグループは上述のとおりガバナンス体制を構築し、環境および気候変動対応を含むサステナビリティ全般に関して取締役会を最高決定機関とする経営陣が責任を負い、主体的に取り組むことを明らかにしています。さらには主要な方針等を取締役に於て議論し、決定しています。

またフューチャー株式会社取締役のうち 1 名を、グループ全体の環境やサステナビリティ関連の取組みを統括する「最高サステナビリティ責任者 (CSO)」に任命し、活動の推進・実行においても経営陣が主体的な役割を果たすことを明確にしています。経営陣主導のもと、環境に関連するリスクと機会の評価および対応を進めています。

◆ 戦略 (Strategy)

フューチャーグループは上述のようなガバナンス体制のもと、環境に関する基本的な戦略として「サステナビリティ宣言」「サステナビリティに関する基本方針」および「マテリアリティ (重要課題)」を取締役会において審議し、決定しています。そのうえで取締役会直下の「ESG&SDGs 推進委員会」に技術開発や経営戦略、財務、人事、広報などの幅広い知見を結集し、気候変動に関連するリスクや機会の特定と評価を行っています。

1) 特定したリスクと機会

- The climate-related risks and opportunities the organization has identified over the short, medium, and long term -

グループ内の知見とノウハウを集約・活用しながらシナリオ分析を行いました。

フューチャーグループは、IT コンサルティングを主要事業としています。事業の性質から、短期的には環境への対応を求められる広範な企業の行動変化に伴うリスクと機会に特に留意すべきと評価しました。中長期的には上述のリスクに加えて、環境価値を巡る取引制度や税制などの法規制が変化するリスクがあると考えます。またシナリオを実現していく過程では、環境および気候変動対応への取組みが十分でないと評価された企業のレピュテーションの低下が、当社グループのマーケティングや採用にマイナスに作用するリスクが考えられます。また環境および気候変動対応を巡る技術開発競争の激化により、求められるテクノロジーが高度化することで、対応に遅れをとった企業のプレゼンスが低下するというリスクも考えられます。

フューチャーグループは、COVID-19 の感染症拡大の前からリモートワークが可能な環境や働く場所を自由に選べる「ロケーションフリー制度」を整備し、社員が柔軟に働ける環境づくりを推進してきました。こうした施策によって、TCFD 提言に例示されている「2°C以下シナリオ」※のもとでの自然災害の増加などが、当社グループの業務の継続性などに及ぼすリスクは大きくないものと想定しています。

※2081-2100 年の世界平均気温が、1986-2005 年と比べて 1.1-2.6°C (平均 1.8°C) 上昇するシナリオ。

2) 事業、戦略、財務計画への影響

- The impact of climate-related risks and opportunities on the organization's businesses, strategy, and financial planning -

環境や気候変動への対応がますます重要な課題となる中、温室効果ガスの排出量を減らすために多くの企業が効率的な業務運営を目指すことが見込まれます。

フューチャーグループは、AI や IoT、クラウド等の最新テクノロジーの活用や効率的なソースコードの作成を通じて、お客様に環境負荷の低いシステムやソリューションを幅広く提供しています。過剰な設備を抱えずに最適な資源配分が可能になるため、効率的な業務運営や温室効果ガスの排出量の削減に資すると考えています。省資源、環境負荷低減を実現する効率的なシステムやソリューションの提供によって、環境および気候変動対応を機会として積極的に捉えていくことも可能になると考えており、こうした考え方を事業戦略や運営にも活かしています。

また広報・IR 活動の一環として、メタバース空間にオフィスの一部を再現した「フューチャー・サステナトピア」を制作しました。仮想空間を散策しながらグループ各社のサステナビリティへ活動を紹介しています。このように IT コンサルティング企業としての特性を活かした、環境および気候変動対応の取組みの周知に努めています。

3) 戦略のレジリエンス

- The resilience of the organization's strategy, taking into consideration different climate-related scenarios, including a 2°C or lower -

TCFD 提言はパリ協定の目標に基づき作成された「2°C以下シナリオ」を含める分析を推奨しています。フューチャーグループはこの推奨を踏まえ、2°C以下シナリオに基づく「シナリオ分析」を行っています。対象企業は持株会社であるフューチャーと主要子会社であるフューチャーアーキテクトとし、技術革新のスピードが速い分野を主な事業領域としていることから、ターゲットを 2030 年としています。

シナリオ分析の結果、上述の 2 社は IT コンサルティングを主要事業としていること、リモートワークやロケーションフリーなど時間や場所にとらわれない社員の働き方を推進していることなどから、台風、洪水、高温化、海面上昇などの気候変動リスクに関する事業や戦略への影響は小さいと想定しました。

環境や気候変動への対応が企業に求められる中、今後はより電力消費の少ない効率的な IT インフラへのニーズが高まると予想されます。さらにはデジタル技術を活用した配送システムや在庫管理の効率化、ペーパーレス化といった省資源化、脱炭素化へのニーズがより一層高まると考えられます。

フューチャーグループは創業以来、AI や IoT、ロボティクス等の最新テクノロジーを駆使して効率的で環境負荷の低いシステムやソリューションを提供し、企業や社会全体の DX 推進をサポートしてきました。事業活動の拡大とともに、技術開発やイノベーションの創出により一層取り組むことで、気候変動対応を機会としていくことが可能と考えています。

◆ リスク管理 (Risk Management)

フューチャーグループは、ESG&SDGs 推進委員会を中心に社内の知見を結集し、環境および気候変動対応にかかる様々なリスクを洗い出すとともに、管理に努めています。

1) 気候関連リスクの特定および評価プロセス

- The organization's processes for identifying and assessing climate-related risks -

フューチャーグループは、グループ最高サステナビリティ責任者の監督のもと、毎年 ESG&SDGs 推進委員会および ESG&SDGs 推進グループ連絡会が中心となり、気候関連リスクの特定を行っています。上述の推進委員会自らのリスク特定に加えて、連絡会を通じてグループ会社から意見を募り、列挙された意見をグループ内に還元して再度意見交換する形で、特定すべきリスクの選定を行っています。

このようなプロセスの結果、2024 年度はフューチャーグループの戦略変更を要するような重要なリスクはないとの結論に至りました。なお 2023 年度については、シナリオ分析の結果、戦略の変更にかかる重要なリスクがないことを確認しています。

2) 機構関連リスクの管理プロセス

- The climate-related risks and opportunities the organization has identified over the short, medium, and long term -

上述のプロセスを経て特定されたリスクは、グループ内の関連部門、具体的には経営戦略や法務、IR、広報などの部門において対応が進められます。

3) 全社的なリスク管理プロセスへの統合

- The way in which the processes for identifying, assessing, and managing climate-related risks are integrated into the organization's overall risk management -

上述のような各種リスクに対する所管部門の対応は、ESG&SDGs 推進グループ連絡会を通じて集約され、ESG&SDGs推進委員会にて管理されます。そのうえでリスク管理のために追加的なリソースが必要となれば、ESG&SDGs 推進委員会が関連部門に要請する形で、全社的な対応を行います。

全社的なリスク管理の取組みは適宜取締役会に報告・共有され、内容に応じて指示が行われます。さらにフューチャー株式会社における代表取締役直下の内部監査室は、フューチャーグループ全体のリスク管理の状況を独立した立場から検証し、適宜取締役会に報告します。このようなプロセスを通じて、環境・気候変動関連のリスクは、フューチャーグループが直面する他のリスクとあわせて全グループ的に管理され、必要な対応が進められます。

◆ 指標と目標 (Metrics and Targets)

フューチャーグループは温室効果ガスについて、2021 年度より Scope1 (自らによる温室効果ガスの直接排出)、Scope2 (他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出)、Scope3 (当社の事業活動に関連する他社の排出) に該当するグループ全体の排出量の公表を開始しました。また企業の成長と気候変動対応の両立を図りつつ 2050 年までの実質カーボンニュートラル化への道筋をモニタリングするという観点から、「社員一人あたりの温室効果ガス排出量」を有益な指標として捉えています。

1) リスクと機会の評価に用いる指標

- The metrics used by the organization to assess climate-related risks and opportunities in line with its strategy and risk management process -

フューチャーグループは、気候変動が及ぼすリスクと機会を把握するため、温室効果ガス (Scope1、Scope2、Scope3) の算出と公表をグループベースで行っています。長年培ってきた IT コンサルティングの知見とノウハウを活かして、排出量を自社で算出しており、特に算出が困難とされるリモートワークにおける排出量も社員のパソコンの稼働時間や社内ネットワークへの接続状況等の各種データをもとに数値化しています。

2) 温室効果ガス排出量

- Scope1, Scope2, and Scope3 greenhouse gas (GHG) emissions and the related risks -

フューチャーグループの 2023 年度の温室効果ガス排出量は、Scope 1 は 277t-co2e、Scope 2 は 2,012t-co2e、Scope 3 は 12,519t-co2e、合計で 14,808t-co2e です。また社員一人あたりの排出量は 5.0t-co2e であり、着実な低下傾向を辿っています。

3) 目標および実績

- The targets used by the organization to manage climate-related risks and opportunities and performance against targets -

フューチャーグループは 2022 年中、日本政府のカーボンニュートラルに関するコミットメントも踏まえ、2050 年までに Scope1、2、3 の合計での温室効果ガス排出量を実質ゼロとする目標を設定しました。この目標のもと、自社の省エネルギー化を進めるとともに再生可能エネルギーの利用を積極的に検討しています。またこの目標に到達する過程をモニタリングする指標として、「社員一人あたりの排出量」を重視しています。企業の DX 推進や社会のデジタル化が重要な課題であるなか、IT インフラを提供する企業には「成長」が求められること、この中で日本のカーボンニュートラル化は、より優れた環境対応・気候変動対応を進める企業や産業に人的資源が移動する形で達成されていくという考え方があるからです。

さらにフューチャーグループでは、最新テクノロジーを活用した環境負荷の低いシステムやソリューションの提供を通じて、顧客企業の業務効率化や省資源化、脱炭素化、省エネルギー化をサポートし、経済社会全体のカーボンニュートラル化に寄与したいと考えています。

(2025 年 3 月更新)